

令和7年第1回白馬村議会定例会 予算特別委員会 審査報告

本定例会において、予算特別委員会に付託された案件は予算審議5件です。5日間にわたり審査しました。各会計の予算書及び関係資料により慎重審査した概要を報告します。

議案第27号 令和7年度白馬村一般会計予算

予算規模は70億9千万円。前年度当初予算比3億8千4百万円の増で過去最大規模。基幹歳入の村税は15億9千4百万円。地方交付税は23億4千万円を見込んだ。重点的取り組み分野を6分野とし、重点分野以外の一般財源枠配分方式は例年どおり。

ふるさと白馬村を応援する基金から3億5千万円。企業版の基金から5千万円。財政調整基金から1億1,500万円など、基金繰り入れ総額は5億4千万円。村債は4億2千6百万円となっています。

次に、各課審査の主な質疑・意見について、審査順に報告します。

総務課関係

問：ふるさと納税、実績では5億9千万円までいったが、今回の目標額は5億円。実績からもっと高い目標設定をしても良かったのでは。

一方で、いつどうなるか分からない制度。使う方では当てにし過ぎないで、ある程度は基金に積んでいくといった考えを持って欲しいが。

答：予算に上げた額は、目標ではなく安全面を考えての5億円。頂いた分を翌年度に全て財源にするという考えは全くなく、8年度はさらに厳しい財政状況になることを予想し、その目途もつけて、7年度は3億5千万円を上限と決めた。

問：地域公社設立可能性調査の意味合いは。観光局と振興公社とふるさと納税がキーポイントになるのでは。

答：自治体へのニーズが高度化し行政サービスの担うべき役割が一層広がっている中で、外郭団体もいくつかあるが、持続可能性を考えた時に地域人材のノウハウを地域で生かしながらお金を稼いで、なおかつ住民サービスにつなげていくことができるのかの可能性調査。行政も関わりながら地域としてお金を稼いで、それを課題解決に回せる仕組みづくりを検討する。

キーポイントはそのとおり。それら外郭団体にコンサルを入れ、伴走してもらいながら外部目線で課題を抽出してもらう。

問：関係人口創出事業は、コミュニティー維持には大変良い事業だと思うが、困りごとが多いと言えば高齢者。デジタル地域通貨も同じで、「アプリ」という言葉が出てきてしまうと、一番困っている人達が、また別の意味で困って

しまう。アナログ的な窓口も必要だと考えるが。

答： 社協と協力しながら、口コミや電話で依頼を受けて、これに載せるといった形をとりたいと考えている。

地域通貨は、アプリと物理カードを全村民に配るといったやり方をしているところもある。いったんアプリで始めてはいくが、取り残す人がいないような形でやっていきたい。これをきっかけにスマホ教室等もしっかり取り組んでいく。

問： ふるさと納税の委託料、今までは3%に納税金額で段階的に変えていたと思うが、それを一律5.3%にしたということか。5.3%の根拠は。

答： 観光局の積算や、他の自治体の包括的に請け負っているところを参考に、高いところで7~8%、安いところで4~5%とあるが、経費率50%内の枠があるため、それに納まる範囲ということで協議の上で決定した。

意見： 総合計画策定委託料、地域公社プロジェクト化の調査委託料、共創プラットフォーム可能性調査委託料、デジタル通貨業務委託料、関係人口創出業務委託料と、委託料のオンパレード。

外部委託を一概に悪いとは言わないが、以前から問題点は、職員にノウハウが残っていないところ。委託業者と職員が一緒にやってノウハウを蓄えてもらうことが肝要。

税務課関係

問： 固定資産税の評価替え後に、村民から異議申し立てはあったか。

答： 今のところ異議申し立て申請はない。

問： 今後の税収の見通しは。

答： 固定資産税の土地については、評価替えで上がったとしても、負担調整により一気に上がることはなく段階的に上がる。建物は、非木造も建っていることから、税収は上がってくると想定している。

問： 建物の建築単価が上がっているが、家屋評価の単価は上がっているのか。

答： 単価は上がっている。家屋評価システムに単価を設定し、数量等を入力すれば算出できるようになっている。

健康福祉課関係

問： 今年雪がかなり多かったが、除雪支援員による支援は間に合ったのか。

答： 除雪支援員の確保は年々難しくなっている。特に屋根雪下ろしは安全確保が難しく、業者にはかなりの負担があった。玄関周りの除雪は、隣近所の支援で、なんとか間に合った。

問： 岳の湯がなくなり、介護予防を考えれば元気な高齢者が集まれる場所が必要。村ではそのような場所は造れないか。村で造れないなら近隣の市町村と

提携するとか、広域で行うとか検討していただきたいが。

答： 必要性は感じている。高齢者の中には、小川や小谷のプールを利用されている方もいる。地区の集まりに閉塞感を持つ方もいるので、広い視野を持って検討していきたい。

意見： これから造る子育て支援施設を、老人と子供たちの交流の場、双方の居場所には出来るはず。検討対象にしてほしい。

観光課関係

問： デマンドタクシー運行事業の現在と変わる点は。ドアツードアの福祉部分で、土日の電話予約ができない点は対応が変わるか。1台を村民専用することはできないか。スキーの板を乗せられないことの周知不足対応は。

答： 昨年7月から昼も3台運行としているため台数に変わりはない。福祉部分と住民利用を切り分けて12月からやってきたが、観光客で混雑が発生し予約がとれない時間帯があるため、来年度改善できるように現在作業を進めている。元々ふれあい号は土日予約のサービスを行なっておらず、そこは変えないことで考えている。しかし混雑状況は把握しており1台を住民専用にする方法も一つの選択肢だと思う。スキー板の課題は、対策としてアプリ上に示せるかシステム会社と調整している。

問： 八方池山荘は、令和4年度の段階から調査を行ない、調査だけでトータルすると8千万円を超えている。選定業者を決めるまでにこれだけの金額は使い過ぎではないのか。

答： 確かに高い金額をかけて取り組んでいるということは認識している。しかし、PFI法が絡んできており、さらにコンセッション方式は全国を見ても事例がなく、職員だけの知識で進めていくのは非常に厳しく、専門家の知識を借りながら確実に事業を進めていきたい。3,652万円が最後の金額となる。7年度にPFI事業者決定、8年度から事業設計、その後工事に入り、令和11年にはオープンというスケジュール感で進んでいる。

問： 観光客向けバス事業で、松本便は大糸線を増便した方が住民も利用できるのでは。

答： 松本便バスは、オーバーツーリズム対策として補助金をもらってやった。夕食難民がだいぶ軽減されたため、来年度予算に松本便は含んでいない。

住民課関係

問： 婚姻届けの記念事業は、イベント的なことを考えているのか。

答： 白馬で結婚された方から要望されている事業。やり方についてはこれから検討する。

問： 昨年に比べごみの量はどのように変動しているか。白馬村のごみの現状、

持続可能な村づくりで環境対策に力を入れていることを、もっと村民や観光客にアピールした方がよいのでは。

答： 1月末時点で事業系が245トン増、生活系で58トン増えているが、災害ごみが含まれているので、実際の生活系は減っている。

ごみ減量のアピールは、広報紙や動画作成等により周知しているが、今後増えることが考えられるので、村が目指すものを村民や観光客に打ち出していくことは重要と考えている。

意見： 広域焼却施設に余力がないことや、ごみ処理経費が高額なことを前面に出してアピールすべき。現状の広報手段の中では、広報誌やホームページより、結局はチラシを使って周知するのがベスト。

農政課関係

問： 北城北部地区圃場整備の今後の予定は。

答： 合意形成で苦慮していたが、聞き取り調査を行なって、事業導入して欲しいという部分については、どういった区画で整備していくのか計画して仮同意をもらった。県へのプレゼンも完了し、7年度に国・県に申請を行ない、8年度に事業採択、9年度換地設計、令和10年から工事が行われる予定で進めている。

問： ナラ枯れ対策の樹幹注入は、ボランティアでやれる事業であり、50万円では少ないと感じるが。

答： 50万円は確かに少ないが、補正を認めていただきながら進めていく

意見： ナラ枯れで木を切らざるを得なかったところに、是非ヤマザクラを植えていただきたい。池田町陸郷や小川村のように観光的に景観が良くなっていくと思う。

問： 地籍調査事業、大出はあと何年かかるのか。残りの北城中部、そして松川よりも北であと何年かかるのか。一方で課税反映は令和9年度を約束している。それはその通りでいいか。

答： 大出地区は4つのエリアに分けていて、8年度・9年度にも新たな調査地区にそれぞれ入る。その後に北城中部のいまだ調査が入っていない地区に入り概ね10年程度はかかると思っている。その後北部地区へ移るが、全体が終了するには、まだ30年はかかる。

課税反映は、税務課と連携を取り予定通り令和9年度の方で進めている。

建設課関係

問： 雪寒指定路線の除雪費用は、3分の2国庫補助が出るとのことであるが、全体の除雪路線の何割あるか。国庫補助は満額出るのか。

答： 全体の3割。3分の2国庫補助とあるが、今までに満額補助をいただいた

ことは一度もなく、また今年は全国的な大雪なので、さらに少ない額になる見込み。

問：ゼロエネ住宅普及事業、重点事業なのに予算を減額した理由は。克雪住宅普及促進で、雪下ろしアンカー普及の遅れとの新聞記事が出たが、村からこれまで県費補助もあるこの補助金の告知がなかった。補助申請はできるのか。

答：ゼロエネ住宅は、使われるケースが伸び悩んでいるがそれは周知不足。雪下ろしアンカーは今年の大雪により必要性が増している。補助申請はできる。いずれも工夫しながら周知を強化していく。

問：景観パトロール関係で、外壁の色が真っ黒になっている家があるが、実際にパトロールして効果が出ているのか。違反建物には、行政からしっかり文章で指導したほうがよいと思うが。

答：景観計画の中でPCDAサイクルがあり、現在はチェック（C）の段階。昨年度で14～15件、色がおかしいところがある。アクション（A）の部分で、担当課としては、施主の公表のほか、設計者や施工業者も公表できるよう条例の改正を考えている。

教育課関係

問：スクールバス運行事業、4月と5月は徒歩通学期間とするとのことであるが、これまで検討してきた中でどのように運行していくのか。予約方法をAIデマンドアプリで実証実験したと思うが、予約方法はどうなっていくか。

答：期間を延長するだけで、運行の形態やバスの台数等については令和6年度と変わりはない。4月と5月については、学校の方からの要望で徒歩通学期間とする。

予約のAIデマンド方式はお金がかかり現実的ではなかった。現在Googleフォームで申請をしてもらう方法に替え、保護者からは簡単で分かりやすくなったとの意見をもらっている。しばらくはGoogleフォームを利用したい。

問：部活は、全て地域移行するという考え方なのか。文科系の部活も移行させなければならないのか。

答：国は、部活動については学校教育活動とは切り離したいと考えている。大きな自治体では指導者がいるが、町村では指導者の部分が一番ネックで、非常に苦慮している。文科系もすべて移行しなければならない。

問：全国的に給食費の負担無償化が増えているが、白馬村も半額補助に近づけ、保護者負担を20%減にすることだが、その理由は。全国的な流れだからやるのか。

答：法律論から言えば、学校給食センターの運営をする上での施設維持費・人件費以外は、保護者の負担であると給食法で定められている。

ただ、近隣市町村の無償化や半額負担との格差を、なるべく縮めることを考

えており、予算折衝でこのような結果となった。保護者負担をできるだけ減らすことによって子育てしやすい環境を作り、それが持続可能な地域づくりに繋がると考えている。

意見： 給食費軽減は、今回新たに親の負担を 20%軽減するとあるが、プラスこれまでの中学生 20 円・小学生 10 円軽減は続けていき、第 3 子以降の無料化と準要保護の無償化も続ける。負担総額は 1,820 万円にもなり、村は頑張ったのに見せ方が弱い。色々の単価を整理し、本当にかかる単価で給食費を示し、年間 200 食のうち、例えば 45 食は無償ですという見せ方もある。

子育て支援課関係

問： 子育て支援施設建設事業 4,235 万円は、解体費を含んだ費用か。解体工事費の補正は詳細設計をした後の 9 月ぐらいか。アスベストの含有量は調べているのか。

答： 設計費用の中に解体費の設計費は含んでいる。解体工事費は、アスベストの含有量を調べてなく、調査と設計をしないと分からないため、9 月補正になる見込み。

問： 1,790 万円のコードモンシステムとは、どのようなシステムで、どんな予算科目があるか。パソコン等備品購入費がかなり高いと思うが内容は。保育士のパソコンスキルは大丈夫か。

答： コードモンシステムは、保育園の運営に関するすべての機能が入ったシステムで、児童の出欠、活動の記録、延長保育料の精算などできるシステム。

内訳は、システム決済手数料、初期導入委託料 11 万円に、システム使用料は月額税別 55,000 円の 24 か月分 145 万円、ネットワーク工事 561 万円、パソコン等備品購入費で 1,072 万 7 千円を計上している。

パソコンは全保育士に配付する 22 台で 1 台当たり 30 万。受付用タブレット 7 台。あとネットワーク用の無線機器。保育士のパソコンスキルは、講習をして習得させる。

問： 保育士不足が懸念されているが、保育士の確保は大丈夫か。児童クラブと子ども教室は、児童数に対して指導員の人数はしっかり確保されているか。

答： 保育士は 4 月の開園はぎりぎり足りているが、下半期に向けて足りなくなるので随時募集していく。児童クラブの指導員は 4 名おり、問題なく運営できているが、指導員が休みの日の代替指導員は引き続き募集していく。子ども教室はぎりぎりの指導員で何とか実施できている状況である。

生涯学習スポーツ課関係

問： 青鬼の伝統的建造物保存事業、人口減少や高齢化でこのままでは誰も住まない保存地区となる可能性もあるが。

答： 保存から保存活用となってきたのは確か。関係人口が重要であると考えていて連携してやっていく。

問： オリンピックレガシーといわれる、スノーハープ、ジャンプ競技場、ウイング 21 の 3 施設、白馬村で一番お金がかかる施設と言われ、稼ぎがなく維持費に充てられない状況が続いている。競技人口も減っていて、大会もスポンサーがつかない中で、今後についてどのように考えているか。

答： 冬のオリンピックレガシーといわれる施設は世界的な課題。村でも負担が大きくなっている現状がある。ウイング 21 はネーミングライツを行う。ここ 1, 2 年で答えが出るものではないが、将来的に確実にぶつかってくる問題だと認識している。

問： ジャンプ競技場の施設管理委託料が増えているが、その理由と管理者は変更するのか。増額の中身はわからないといけないのでは。

答： 業者からの見積もりにより 1,000 万の増。7 年度の維持管理業者は、4 月・5 月は随契で白馬観光開発。6 月以降は一般競争入札で業者を決める。

その際中身は精査し、売り上げを伸ばすというところも落とし込んだ、しっかりとした仕様書していく。

討 論

課ごとの討論はありませんでした。

全体討論では、

- ・賛成。過去最高額 70 億 9 千万の当初予算となった。財政が厳しいことは中学生でもわかっている。委託料が大きなウエイトを占めるが、中身はしっかり精査し、職員と一緒に考え自分たちのノウハウを作っていただきたい。予算をかけて村民の暮らしが豊かになっていくことが大事。村民目線に立った予算の執行をお願いしたい。
- ・賛成。人件費・光熱水費等高騰している中で、枠配分方式での努力と、新規事業に評価できる事業があった。今後、官民連携の事業が増えてくる中で、職員の中にノウハウを持った人材を育成し、事業をスピーディー進めて行き、皆が目指す村づくりに期待したい。

採決の結果、議案第 27 号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第28号 令和7年度白馬村国民健康保険事業勘定特別会計予算

予算規模は 11 億 3,510 万円。前年度比 5 千 5 百万円の増。国保税は 2 億 2,360 万円、県支出金 7 億 71,328 千円、一般会計繰入金 1 億 17,252 千円、歳出の保

険給付費は 7 億 63,513 千円を計上した。

質疑

問： 国保税の増加は税率を改正した関係か。年収別の影響を周知していただきたいが。

答： 税額の増は、税率の改正によるもの。年収に対しての国保税の影響額は、単純なモデルケースを広報するようにしていく。

討論

反対。働く場所の健康保険によって保険料に差があるのはおかしい。国保税の引き下げを望む。

採決の結果、議案第 28 号は委員長を除く委員多数の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第29号 令和 7 年度白馬村後期高齢者医療特別会計予算

予算規模は 1 億 4,310 万円。前年度比 7,570 千円の増。保険料は広域連合資料に基づき 1 億 10,829 千円、一般会計繰入金は 31,922 千円。歳出の広域連合負担金は 1 億 39,137 千円を計上した。

質疑・討論 なし

採決の結果、議案第 29 号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第30号 令和 7 年度白馬村水道事業会計予算

水道事業収益は 3 億 94,163 千円で、前年度比 69,941 千円の増。

水道事業費用は 3 億 24,020 千円で、前年度比 19,750 千円の増。二股浄水場運転管理委託料など例年経費に、二股浄水場 P P P 導入可能性調査業務委託料 19,910 千円、同地質調査業務委託料 9,163 千円等を計上した。

資本的収入は 8,519 千円。前年度比 9 千 8 百万 3 千円の減は、7 年度では工事請負費に企業債の借り入れを行わないため。

資本的支出は 1 億 79,106 千円で、無電柱化に伴う水道設備の移転費用、配水管布設工事 4 か所、機器更新工事 4 件などの工事請負費で 1 億 6 百万円。

質疑

問： 官民連携について、上水道と下水道と一緒に考えているのか。管理はどう

なるのか。

答： 国は上下水道一体のウォーターPPP を推進していて、村もそうしたいが、オペレーションまで入ってくると手上げが少なくなる。浄水場の建設から始まるのがネックだが、まず浄水場の官民連携調査を行い次の段階へ進む。設計と建築までであればメリットがあると考えている企業は複数ある。

問： 今回、簡易調査でこれだけ手が上がっていて、2,000 万の可能性調査はどこまで深くやるのか。発注仕様書まで出来るのか。

答： 官民連携がうまくいかなかったことを想定して、公募型プロポーザルで契約した場合に要求水準書が必要になってくるが、職員で作成するのは難しい。要求水準書の基となるものは出来る。

討論はなく、採決の結果、議案第 30 号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議案第31号 令和7年度白馬村下水道事業会計予算

下水道事業収益は4億91,289千円、下水道事業費用は4億79,405千円。

資本的収入は4億59,621千円、資本的支出は5億35,632千円。し尿等投入施設整備・設計施工管理業務に4百万円。し尿等投入施設土木工事に9,682万円。ストックマネジメント計画及び地震対策詳細設計業務委託料4千万円を計上した。一般会計からの繰入金は、補助金と出資金の合計で3億33,507千円。

質疑

問： 倉下の浄化槽と村の関係は。浄化槽が寿命に近づいているが、将来的には下水道に繋げていくのか。

答： 浄化槽の事業主体は村ではなく、どんぐり別荘地で管理するもの。状態は悪いが、管路も老朽化していることを考えると、下水道に繋ぐことよりは、個別に浄化槽を設置するほうが、負担が少なく済むと思われる。

討論はなく、採決の結果、議案第 31 号は委員長を除く委員全員の賛成により、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、予算特別委員会の委員長報告を終わります。